

評価領域	教育課程
------	------

<b>重点目標</b>	2年後の校舎移転もふまえた学校教育目標の具現化
<b>現 状</b>	今年4月実施の総合学力調査の5、6年生の結果を見ると、市平均よりもよい状況にあり、学力は回復傾向にある。コミュニティ・スクールの機能を生かし、家庭・地域の応援を得ながら、地域人材・素材の活用を進めて、学びの充実を図ることで、情意面の意識改革を図る必要がある。
<b>具体的な目標</b>	秋田県学習状況調査の5、6年生の各教科の正答率県平均を目指すとともに「勉強が好きだ」「学校が楽しい」「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」の質問に対する肯定的評価の割合が県平均を上回るようにする。
<b>目標達成のための方策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○令和8年度の校舎移転、新校歌制定をふまえ、学校教育目標をより意識した教育活動を工夫する。</li> <li>○指導部（学習指導部、生徒指導部）を組織し、学校経営プランを年間4期のスパンでPDCAサイクルを回して、学級や学年で、確実に共通実践を積み重ねることで、子どもたちの資質能力向上につなげていく。</li> <li>○生活科や総合的な学習の時間を核として、地域人材、地域素材を活用した学びを充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。</li> <li>○学年担任制により、学年経営はチームで行い、ベテラン・若手それぞれのよさ、持ち味、得意分野等を生かしながら組織的な経営を図っていくことで、子どもたちを複数の目で支援するとともに、教員の資質能力向上を図る。</li> </ul>
<b>具体的な取組状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎移転、新校歌制定をふまえ、校歌を歌う機会を大切にするとともに、創造的な愛校活動を行事や縦割り活動等と関連付けて行ってきた。</li> <li>・年間を4つの期に分け、新たに組織した指導部が主体的に経営改善を図る体制を整え、学年経営に反映できるようにした。また、企画委員会を毎週行い進捗状況等を把握するとともに、毎週水曜日の打合せを効果的に活用して、共通理解・共通実践を積み重ねてきた。</li> <li>・生活科や総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントにより、各教科・領域や行事等と関連を図った教科横断的な指導に、地域人材・地域素材を有効に活用してきた。また、テーマに沿った活動をPTCRと兼ねて行ったり、音楽会から変更した学習発表会で探究活動の一端を発表したりして、取組の様子を発信した。</li> <li>・学年内で指導するクラスを固定しないで、それぞれの学担が持ち味等を生かしながら互いのクラスで指導する機会を多くするとともに、TTを活用して複数の目で子どもたちの支援ができるようにした。</li> <li>・保護者への理解をお願いしながら、「学校の当たり前」「これまでの取組」を見直し、改善を図っていくことで、学校教育目標の具現化と働きがいのある職場づくりをめざしてきた。</li> </ul>
<b>達成状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5、6年生の学力は秋田県学力学習状況調査の県平均と比較して、5年生は4教科中2教科、6年生は1教科上回っているが、その他の教科は下回っている。しかし、5、6年生とも4教科中2教科に改善が見られた。</li> <li>・「勉強が好きだ」の肯定的評価の割合は、5年生は県平均よりややよい。6年生は県平均並み。</li> <li>・「学校が楽しい」の肯定的評価の割合は、5、6年生とも県平均並み。</li> <li>・「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」の肯定的評価の割合は5年生は県平均並み、6年生はやや劣る。</li> </ul>

P

D

自己評価	(評価) B	(根拠) 昨年度の経営反省を踏まえ、学年担任制や地域人材・地域素材の積極的活用など、働き方改革と一体的な経営改善を行ってきたが、数値目標に近づいているものの、達成までに至っていない。	C
------	-----------	--	---



評価基準

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた    B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 学年担任制や2C3TのTTやコース別学習等により、県学習状況調査では県平均を下回る教科もあるが、経年比較で見ると改善しており、県平均との差がマイナスからプラスに転じている教科も複数ある。 生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域人材・地域素材を積極的に活用した地域に根ざした主体的・対話的で深い学びにより、情意面の向上にもつながっている。地域に貢献する活動へとつなげてほしい。 来年度も目標達成のために策定した今年度の4つの方策を継続し、学校教育目標の具現化に結びつけてほしい。	C
------------	-----------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>来年度末の校舎移転・新校舎制定をふまえ、今年度の4つの方策を基本的に継続していく。</p> <p>校舎移転に関わる取組については、児童、保護者、学校運営協議会と話し合いながら、思い出に残る1年とするとともに、新生鶴舞小学校につながる取組を行う。</p> <p>地域人材・地域素材を活用した学びに、タブレット等のICTを効果的に活用して、学びの充実を図る。</p> <p>学年担任制、教科担任制、TTを組合せながら、教員の一人一人の持ち味等を生かして個別最適な学びと教員の資質能力向上を目指していく。</p>		A
-----------------------	--	--	---